

宇宙の神秘

宇宙には、かなり以前から興味がありました。それが加速したのが子供が小さい時です。

「宇宙図鑑」という絵本があり、読みました。当時は現職で忙しくしてしまっていたので、特に「読む」とか、

「見る」とかは有りませんでした。退職してから本を読むようになり、今ではネットニュース

でも関連することは全て読むようにしています。火星に生命の起源となる物質があると言いますが、それは、今あるのではなく、40億年前のものと考えれば、「火星」に「生物」が居たと考えることも「あり」ですよ。今は「138億光年」までは宇宙の存在が確認されています。宇宙は膨張しているため、実質は464億光年

先までは確認されているようです。

2026・3・30

太陽系で最も巨大な天体は中心にある太陽(恒星)です。質量は太陽系の全天体の99.8%を占めています。次いで大きいのが太陽を回る8個の惑星で、水、金、地、火、木、土、天、海です。2006年太陽系天体の新しい分類法が導入され、新たに準

惑星という枠組みが作られました。以前惑星だった冥王星がこの枠組みに再分類され、惑星ではなくなりました。

2026・4・5

はやぶさ2が小惑星「リュウグウ」から、持ち帰った「砂」を分析したところ、5種類の「生命」に関わる物質が発見されました。地球の生命はどこから来たのか、通説では「宇宙から来た」と言う事が有力でした。その説を裏

付ける発見でした。宇宙にはそんな物質が沢山あるようです。

2026・4・12 宇宙は真空だとよく言われます。真空とは物質が何もない状態を指す言葉ですが、「まったく何もない状態」を絶対真空と言います。宇宙空間はこの絶対真空ではなく、わずかですが、原子や分子が存在しています。宇宙空間には、原子や分子だけでなく、電波や光、宇宙線と言われる粒子も飛び交っています。このほかに、正

体不明の「ダークマター」や
「ダークエネルギー」
も存在しています。

2026・4・20 地球の大
気が少しづつ放出されている
とか。地球も永遠ではない。
最も今の世界情勢では、その
前に核戦争で滅びるのではと
心配です。地球にとって小惑
星の衝突が怖いのです。地球に
接近する小惑星は三つのグル
ープに分けられているようで
す。アテン群、アポロ群、ア
モール群です。地球接近小惑
星は 28917 個発見されていま

す。これらの小惑星の軌道修正に成功した例もあるようですが、心配ではありますね。

2026・4・27 地球に接近する小惑星の中で、地球に異常接近するものや衝突した際に大きな被害をもたらす小惑星は「潜在的危険を持つ小惑星」と呼ばれ、特に重点的に監視されていて、2022年5月段階で2243個見つかっています。衝突する小惑星の直径が100mを超えると甚大な被害をもたらすと

考えられています。小さな天体を衝突前に検知するのは難しいのが現状です。科学は日々進歩していますので、そこに期待したいものです。

2026・5・2

木星は地球の11倍もある巨大な惑星で太陽系で最も大きな惑星です。木星はそのほとんどが水素とヘリウムから出来ており、体積は地球の5570倍もありますが重さは318倍しかありません。木星には地球のような固い表面は有りません。赤道に平行に見える何本もの縞

模様と赤みを帯びた大きな楕円形の模様「大赤斑」が木星の特徴です。

2026・5・10

夜空の星々をつなぐと、いくつもの星座が出来上がります。これらの星座はどのくらい遠くにあるのか。太陽から最も近い恒星(太陽のような星)ケンタウルス座のプロキシマ・ケンタウリ 4・2 光年、全天で最も明るいオオイヌ座のシリウスは 8・6 光年、わし座のアルタイル(七夕の彦星)は 17 光年、こと座のベガ(七夕のおりひめ星)は 25

光年です。七夕の彦星とおりひめ星は8光年離れているのです。(光が1年かかって進む距離を1光年と言います)光は学校で習ったように秒速30万キロです。その速度で8光年は相当な距離ですね。彦星とおりひめ星は8光年も離れて存在していますが、物語ではすぐそこにいるかのようです。

2026・5・17

星はどのようにして生まれるのか。宇宙空間には、様々な種類の原子や分子がガスやちりとして薄く漂っています。星間雲と

呼ばれます。星間雲のガスやちりの一部は互いに引き合って集まり、星間分子雲と呼ばれる星の材料になります。星間分子雲は、時間が経つうちに、重力によって収縮して温度が高くなり、中心に密度の濃い部分、分子雲コアが出来ます。コアの周りには渦を巻くガスやちりの円盤が形作られ、やがて中心に星の赤ちゃんである原始星が出来ます。

2026・5・23

宇宙は今も広がり続けています（膨張しています）かって宇宙が膨張するのは、時間が経つに従

って、膨張の速さが小さくなる「減速膨張」だと考えられていました。ところが三人の天文学者により、この常識が覆されました。ある時期まで宇宙は減速膨張していたのですが、その後「加速膨張」つまり、時間が経つほど膨張の速さが増すようになったというのです。それは宇宙誕生から 102 億年後だそうです。

2026・6・1

